



衛生動物だより

No. 55

より精確な検査のために

市民の皆様から保健センターに持ち込まれた検体のうち、より詳しい鑑定が必要なものは当担当に送られます。種によって発生の原因や対策が異なることから、可能な限り詳しい検査を心がけています。今回は、より詳しい検査のためにはどのような検体が良いのかをお伝えします。

1. 体の欠けが少ない

特に節足動物の鑑定を行うときには、触角、爪、毛などの小さな部品が重要になります。死骸を持ち込む場合には、できるだけそっと取り扱い、タッパーなどに入れてお持ちください。より詳しい鑑定ができるようになります。



2. テープで固定されていない

テープに固定した検体が送られてくることがあります。虫が小さすぎて拾えない、触りたくない、などいろいろな理由があるようです。

鑑定の際には、検体を上下左右前後から観察します。この時にテープなどに張り付いていると、二方向からの観察しかできません。卓上ほうきで掃き集めるか、割箸で拾い容器に移してお持ちください。



3. 検体が生きている

検体の種類によっては、死んでしまうと鑑定が難しくなるものがあります。例えば写真のシバンムシは、鑑定には触角の形状が重要なのですが、死ぬとそれを折りたたんで体内に収納してしまいます。ほかにも、生きているときと体色を変えるもの、急速に乾燥して崩れてしまうものなどがあります。できるだけ検体を殺さずにお持ちください。



4. 検体がたくさんある

検体がたくさんあるとより詳しい鑑定ができるようになります。一部を解剖して部位ごとに観察するほか、オスとメスで違いがある生き物の場合にも役立ちます。右の写真はアズキゾウムシ。オスとメスで各々特徴的な触角の形をしているため、両方揃っているとより確実な鑑定を行うことができます。



ほかにも、幼虫の発生場所の餌と一緒に持ち込むことで羽化させて鑑定できるなど、いろいろなポイントがあります。調べてほしいなと思ったら、まずは電話で、保健センターにご相談ください。